

1・特定非営利活動法人 夢輪について

私達「特定非営利活動法人 夢輪(ゆうりん)」は、地域に根差した生涯学習をサポートする団体として、平成15年にボランティアグループとして発足しました。

地域の様々な年齢層の方々のニーズにあった趣味や学習の講座や。コンサートなどを企画し、地域の交流や助け合いの場を提供し、心豊かに生活するための生涯学習を推進しています。

また、共生のまちづくりの一環として、地域在住の外国人の方々との交流も深めています。

2・特定非営利活動法人 夢輪 が発足した経緯

一昔前の日本は、地域内で困っている人がいれば必ず誰かが手を差し伸べてくれる、いい村社会がそこにはありました。人の目が行き届き、声を掛け合うなど、住民一人一人が地域のコミュニティに参加することで、互いに支え合い、社会的弱者でも孤立しないような共生の仕組みがありました。その頃、人々は経済的に豊かでなくとも、心豊かに生活していたと思います。

ところが昨今の成熟した現代社会では 地域と人、人と人との関わりが希薄となり、個人が他者と繋がるためのコミュニティが存在せず、または形骸化し その機能を果たさなくなっています。地域との繋がりを失った人々は孤立してしまい、そのために困ったことがあっても自分では解決できずに悩みを抱え、生きづらさを感じてしまいます。いわば、社会が社会的弱者を生んでいる状況です。例えば、家庭内暴力や両親の不和に悩む子ども達が、周りに相談できる大人がいなかったために苦しんでいます。結婚をきっかけに仕事を辞めた母親達は、子育てや家事に追われ雇用の機会を失い せっかく学生時代に勉強してきたことや、仕事で積んだスキルを生かせず、経済的に自立できずに家庭に閉じこもり 社会と関わりを持たずにいます。片親の子ども達は、学習塾に通う経済的余裕もなく 親が働きに出て忙しく 家で勉強を教えてもらえず 学校の勉強についていけなくなる子もいます。外国人の子ども達は 日本語がわからず 友達ともうまくコミュニケーションがとれず 不登校児になる子もいます。その親達もまた 言葉の壁が地域との交流の妨げとなっています。少ない年金で生活する高齢者は 趣味をもって老後を有意義に過ごしたいと思っても 娯楽にお金を掛ける余裕がありません。

「誰にも相談できない」

「誰も助けてくれない」

「社会と関われない」

このような日本の現状が 心豊かに生きることを困難にしています。昨今の単身者世帯の増加や孤立死、悲しい犯罪事件などはこのような人間関係の希薄な社会の現実が一因 d ふえ起きているように思います。

人は 生まれて来るときには平等ですが 環境によっては幸福な人もいますし たまたま不幸になる人もいます。人生の途中で様々な困難に直面したり 苦しい時もあります。こんな時 誰かが手を差し伸べれば立ち直ることができるはずなのに、村社会なき今 人々はそのチャンスがないまま 放っておかれています。ひとりひとりが支え合い、助け合い、お互いに持っているものを分かち合うことで 解決できることが多いはずなのに、残念ながら現代社会では そうした仕組みや場所がありません。

私たちは、行政に何とかしてほしいと要望するだけでなく 地域の一員である自分達がまずは立ち上がり、自分達でその仕組みを作ろうと考えました。

「目の前の困っている人を助けたい」

「みんなが生きていることを幸せに感じる心豊かな社会にしたい。」

「目の前の困っている人達をとにかく助け 支え合って生きていきたい。」

そんな強い思いから、ボランティアグループ夢輪 が発足し その思いをさらに躍進発展させるために、 特定非営利活動法人 夢輪 を平成24年8月に設立しました。

生涯学習を通じて 地域のコミュニティといえる場を人々に提供し、困った時に手を差し伸べる身近な存在として、「人は生まれてきた以上 幸せになる権利がある」を基本理念に、夢輪は様々な活動を行っていきます。

3・夢輪の活動

夢輪は 生涯学習を通じて様々な人々が交流し、親子で参加し同じ場所を共有することで家族の絆を深め 地域の年齢層の異なる人々が人間関係を構築し、学ぶ喜びや地域との関わりを感じてもらえるよう 下記を含むイベントの企画や定期講座等を開設し これまで多くの方に参加していただきました。

・ 幼児、小学生のための学習塾

学校の勉強についていけない子どもたちや 学習する楽しさを知ってもらいたい子どもたちに、国語・算数・理科・社会・英語を教えます。また 学校や家庭内の色々な悩みごとの相談を受けます。

・乳幼児親子のための子育てサロン

子育てに悩む母親に、アドバイスをします。子どもたちは外で遊びながら五感(感じる心)を育てていきます。親子で遊ぶことで子育ての楽しさを知ることができ、子育て世代の親同士のコミュニケーションの場を作ります。

・パッチワーク、絵手紙、手芸、健康体操、お琴などの講座

スタッフや参加者の中からそれぞれの得意分野や経験を持ち寄り、講師をお願いしています。講師として謝礼を支払うことで、雇用されることが難しい母親たちの副業としても貢献し、また能力を生かす場を提供しています。

・外国文化交流、料理教室

インドネシア、ロシア、台湾など 地域に住む外国人を講師に招き、母国の家庭料理や文化交流・母国語を学習し、外国人と交流を深めます。また、国際結婚で日本に来た女性たちは日本語が話せず、働きたくても雇ってもらえない方が多いので、日本語を学べる場でもあります。

・童謡唱歌、歌声サロン

50歳～80歳代の世代が中心になって、日本の古き良き童謡唱歌、昭和歌謡を歌います。

・コンサート

歌やクラシックのコンサート、影絵鑑賞、映画上映会などを開催します。子ども達の感性が柔らかいうちに本物の良さを知ってもらい、のびやかな感性を育てます。またこれをきっかけに 各分野の方々と交流を深めます。

・イベント

蛸狩り、芋ほり、プレイパークなど季節感や自然のすばらしさを体験できるイベント行事を定期的に行います。夢輪まつりを毎年行います。各講座の日頃の成果発表、参加者同士の交流、地域の方々との交流を深めるための機会を作ります。

4・任意団体から法人化した理由

ボランティアグループ夢輪は、経済的な理由から学びの機会や趣味を楽しむことが難しい方にも負担なく参加してもらえるよう、コストを徹底的に削減し、スタッフや参加者がそれぞれ持ち回り

で講師をするなどして、奉仕の精神で自分たちの持っているものを出し合い、互いに補う形で活動していました。しかし、奉仕の精神だけで団体を維持していくのには限界があり、活動を継続していくためには人件費も事務所の家賃もかかりますので、夢輪も利益をあげていかなければなりません。よりいいものを提供するにはそれなりの資金が必要となり、資金を確保するためには素人の集まりに過ぎない任意団体である夢輪を法人化し、スタッフ同士が結束力を強め、大きな組織になることで社会からの信用を得、きちんと組織運営で利益をあげ 寄付や協賛を募っていくことが重要だと考えるようになり、特定非営利活動法人を設立しました。

5・今後の活動

ボランティアグループ 夢輪の理念・活動を踏襲し、特定非営利活動法人から 認定 NPO 法人をめざし これまで以上に社会に対して責任をもって活動していきます。またもっと幅広い年齢層の方々向けに新しい講座を次々と開設していきたいと考えています。大きな夢を語るとするならば、資金に余裕が出来ましたら これまで予算の都合で招致できなかった本格的なクラシックコンサートや劇団などを呼んで、社会の宝である子ども達の感性がのびやかに磨かれるよう 本物・良い物をたくさん見せてあげて、子ども達ののびやかな感性を育てていきたいと考えています。また将来的には、恵まれない子ども達のために 独自に学費の助成(奨学金)制度を設けることを目標としています。